

コッ・サンテピアップ紙（カンボジア）による安倍総理書面インタビュー
（11月16日付，1面及び3面）

（問）現在の日本とカンボジアの関係は非常に強固だが、二国間関係を更に強化するための貴総理のお考え如何。また、地域及び世界の平和と繁栄を実現するための両国の役割についての貴総理のお考え如何。

（総理）多くの日本人がカンボジアの素晴らしい文化遺産に憧れてカンボジアを訪れ、その美しい自然に触れてカンボジアを好きになって帰国してきます。

そんなカンボジアを、日本カンボジア外交関係樹立60周年の年に、日本の総理として約13年ぶりに公式訪問できることを大変うれしく思います。今回の訪問を通じ、“かさねた信頼、きづく未来（Trust we built, future we share）”に向けて二国間の協力関係を一層深化させたいと思います。

具体的には、2007年に私とフン・セン首相との間で確立した「新たなパートナーシップ」を礎に、和平プロセス以来の両国の強固な協力関係を一層拡大させたいと思います。

特に人的交流は二国間関係の基礎です。私が提唱したアジアの青少年交流のための枠組みである「JENESYS 2.0」等も活用し、若い世代の交流を一層拡大していきます。

また、貿易投資の拡大を目指し、「東アジア地域包括的経済連携（RCEP）」や「日ASEAN包括的経済連携（AJCEP）」の交渉が進展し、両国の経済成長につながっていくことを期待しています。

さらに、本年は日・ASEAN友好協力40周年です。日本としてはASEANの対日調整国であるカンボジアと、ASEANにおける幅広い協力につき緊密に連携してきています。12月の日ASEAN特別首脳会議の成功に向けて引き続き協力していくことを楽しみにしています。

日本はこれまでカンボジアを含むASEANの平和と発展に貢献してきています。例えば、日本はカンボジア和平会議を主催し、日本として初のPKO派遣を行いました。

日本は、「積極的平和主義」に基づき、時代に即した協力関係を今後も続けていく考えです。そのため、ASEANの連結性の強化に資するような、人間の安全保障の強化やサイバー問題への対応でもASEANと取り組み、地域の平和と繁栄のための努力を強化していきたいと考えています。

（問）本年、日本とカンボジアが外交関係を樹立して60年を迎えた。特にカンボジア和平後の20年間にわたり、日本はカンボジアの友人として、カンボジア

に対して様々な経済協力を実施してきたが、今後の対カンボジア経済協力の方針如何。

（総理）日本はカンボジア和平達成のため積極的に貢献し、和平実現後の20年間、カンボジアの新たな国造りのため、幅広い分野における経済協力を一貫して実施してきました。

現在、カンボジアに対する援助においては、2015年のASEAN共同体発足も念頭に、連結性の強化、域内の格差是正を図るとともに、人間の安全保障及び環境の持続可能性を確保する観点から、特に「経済基盤の強化」、「社会開発の促進」、「ガバナンスの強化」を重視しています。

例えば、国道一号線やネアックルン橋の建設等を通じたインフラの整備はカンボジア整備ひいては東南アジア全体の回廊を構築し、地域の連結性向上に貢献しています。

母子保健分野でも長年にわたり協力してきており、今回の訪問で私は、95年に日本が建設を支援した「国立母子保健センター」を視察します。

カンボジア政府が掲げる「四辺形戦略」を基盤とする開発目標達成を支援し、引き続き共に歩んでいく考えです。

ODAを始めとした開発支援に加え、日本企業の投資促進にも力を入れていく方針です。近年、日本企業による対カンボジア投資は増加しており、最近3年でカンボジアにおける日系企業数は約3倍となり、現在140社以上に上っています。

現在、日本は日本式医療の国際展開を官民一体で進めています。この観点から、今次訪問において、日本の医療の質の高さをカンボジアの皆様を知っていただくための医療関連セミナーにも出席します。

今後、更なる投資を呼び込むため、カンボジア政府としても、人材育成、電力事情の改善、通関手続きの簡素化などの課題に引き続き取り組むことを期待しています。